

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科修士課程
入学者選抜

小論文筆記試験

試験日 令和8年1月20日（火）

注 意 事 項

1. 「解答始め」の合図があるまでこの冊子は開かないこと。
2. 問題冊子は表紙1枚と問題用紙1枚（表裏2ページ）及び裏表紙1枚、
解答用紙は1枚、下書用紙は1枚である。
3. 受験番号と氏名は、問題用紙と解答用紙の所定の欄に「はっきり」と記入すること。
4. 落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があれば、手をあげて検査員に知らせること。
5. 解答は、必ず解答用紙の指定された所に記入すること。
6. 解答は、「横書き」で枠内に納まるように記入すること。
7. 下書用紙は、試験終了後は持ち帰ること。
8. この冊子は、持ち帰らないこと。

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 修士課程
入学試験（令和8年4月入学（第2次募集））

科目：小論文

氏名

受験番号

出典：日刊工業新聞 2020年9月4日 科学技術の潮流 66

（注）アメリカの核物理学者ワインバーグ（Alvin Weinberg）が1972年の雑誌Minervaの論文で提示した用語。科学と政治の間にある、科学に問うことはできるが科学では答えることのできない領域のこと。例えば、ある有害物質の毒性を科学が定量的に示すことができる場合でも、どの程度のリスクまで社会が許容するかは、科学的には定めることができず、政策的な決定の課題となる。

設問 トランスサイエンスを踏まえて、科学者の社会的役割について400字以内で考察せよ。

出題意図

本設問は、トランスサイエンスの概念を踏まえ、科学者が社会の中で果たすべき役割について理解しているかを評価することを目的とする。科学的知見と社会的・政策的判断が交錯する状況において、科学者が専門性を生かしつつ社会とどのように関わるべきかを、自らの言葉で論理的に考察できるかを問う。